A—99　乳幼児の偏食，食欲不振，肥満に関する食品学的研究

日本総合愛育研究所　武藤　静子
高橋　道子
○村田　寿子
内藤寿七郎

1.　乳幼児に発生する偏食，食欲不振，肥満等のeating problemsが何等かの形で乳幼児の体格，健康状態，性格形成などに影響を及ぼす可能性が考えられる。これらの問題が年令的発達段階の特異現象であるか，或は家庭環境の影響とみるか，の関係を明らかにしてゆくために乳幼児を対象に longitudinal な調査をしつつあるが，今回は3,4,5歳児のそれぞれの現状について，母親の態度とも結びつけて追求し，報告する。

2.　愛育病院で生れ，その後同病院保健指導部で定期的に育児指導を受けている3～5歳児428名（男235，女193）が対象で，健康状態，食欲，食べかた，間食，食品の好み，日課などについて質問紙による調査を行なった。

3.　食べなくて困る食品があると答えたものは66%で，具体的な食品の種類は91種に及び野菜が主位を占め，次が肉魚類であった。これに対する母親の態度は，食べさせるように努力する型（76%）と，自然にまかす型(24%)に分けることが出来る。一方ほしがって困る食品のあるものは47%で，76種の食品があげられ，この中約半数は甘い菓子類で，残りの約半数は，調味，衛生，消化性などに問題のある食品であった。母親の態度には条件つきで与える型(62%)と与えない型(21%)がある。